

アンゴラ共和国月報

2015年2月号
在アンゴラ日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 6日, 2015年国家予算修正案が閣議決定
- 10日, 閣議決定した2015年国家予算修正案を審議するため共和国評議会を開催
- 20日, ルイ・アウグスト・テイト(Rui Augusto Tito)氏, 国土・企画副大臣(公共投資担当)に任命

【外交】

- アンゴラ・コンゴ(民)・ザンビアの3カ国大統領がベンゲラ鉄道完工式に出席

【経済】

- Standard & Poor's 社, アンゴラ国債をBB-からB+に格下げ
- アンゴラ LNG 社, 年内に生産再開の見通し

内政

1 国家予算修正案関連

(1) 修正予算案の閣議決定

6日, 2015年国家予算修正案が閣議決定された。同予算案は40ドル/バレルの想定油価で策定されており, 総額は5兆4千億クワンザとなった。経済成長率見通しは6.6%(石油部門の成長率は9.8%, 非石油部門は5.6%)。同予算案は近く国会に提出される(JA 2/7)。

(2) 共和国評議会の開催

ア 10日, ドス・サントス大統領は共和国評議会¹を開催した。開会挨拶においてドス・サントス大統領は「昨今の原油安に鑑み, 6日に閣議決定した2015年国家予算修正案について同評議会メンバーの意見や提案を聴取する必要がある。そのために同評議会を開催した」と述べた。

イ 同評議会にはヴィセンテ副大統領, ディアス・ドス・サントス国会議長, フェレイラ憲法裁判所長, ソウザ検事総長及びアルメイダM

PLA副党首等の評議会メンバーが参加した。また, コスタ大統領府大臣, グラッサ国土・企画大臣, マヌエル財務大臣, ゴルジェル経済大臣及びジデ・モライスNA総裁が招待された(JA 2/11)。

2 国土・企画副大臣, BNA 副総裁の任命

20日, ルイ・アウグスト・テイト(Rui Augusto Tito)氏は国土・企画副大臣(公共投資担当)に, クリスティーナ・フロレンシオ・ディアス・ヴァンドゥーネン(Cristina Florêncio Dias Van Dúnen)氏及びグアルベルト・リマ・カンポス(Gualberto Lima Campos)氏が中央銀行副総裁に任命された(JA 2/21)。

3 MPLA, リナ議員を国会第一副議長に推薦

23日, MPLA中央政策局は, 長らく空席となっていた国会第一副議長にジョアナ・リナ(Joana Lina)国会第二副議長を, 国会第二副議長にベント・ベント議員を推薦することを決定した(JA 2/24)。

¹ 憲法第135条に規定された大統領諮問委員会。

外交

1 ベンゲラ鉄道完工式

(1) 14日、ドス・サントス大統領、カビラ・コンゴ(民)大統領及びルング・ザンビア大統領出席のもとベンゲラ鉄道の改修完工式典が開催された。

(2) 3カ国の大統領はコンゴ(民)との国境沿いに位置するルアウ駅で下車し、ルアウ川岸に3カ国の国民の友好及び協調を象徴する3本の木を植樹した。また、公式昼食会では昨今の国際・地域情勢、特にロビト回廊の次期フェーズの開始時期につき意見を交わした(JA 2/16)。

2 アンゴラ・ザンビア、2協定に署名

13日、ルアンダ訪問中のカラバ・ザンビア外務大臣とトマス運輸大臣は運輸部門(鉄道及び河川)における両国間協力関係を刷新するための2つの協定に署名した(JA 2/13)。

3 ギニアビサウ外務大臣の来訪

23～27日、ローザ・ギニアビサウ外務大臣は当地を訪問し、ヴィセンテ副大統領、シコティ外相及びロウレンソ国防大臣と会談した。同会談において同外相は①3月25日にブリュッセルで行われるギニアビサウ支援会議への参加依頼をするとともに、②両国間協力関係(特に国防分野)について話し合った(JA 3/22, 25, 28)。

4 ドイツ練習艦隊の寄港

(1) 20日、Muller当地独大使とロウレンソ国防大臣が会談した。両国はギニア湾の安全保障を重視しており、同湾における海賊対策のためにドイツ練習艦隊3隻がルアンダ港に寄港する(JA 2/21)。

(2) 21日、ルアンダ港に寄港したドイツ練習艦隊のSeidl船長は、同港で24日にアンゴラ海軍と合同演習を行う旨述べた。独艦隊は同港に3日間停泊する。二国間軍事協力の目的は独海軍によるアンゴラ海軍の人材育成であり、これは昨年11月に両国国防大臣

の間で締結された協定文書に依拠する。独はアフリカ沿岸の治安を強化し、ギニア湾地域の海賊対策に貢献する(JA 2/22)。

5 スペイン産業・エネルギー・観光大臣の来訪

23日、当地訪問中のロペス・スペイン産業・エネルギー・観光大臣は、ヴィセンテ副大統領、ボルジェス電力・水大臣、ヴァスコネーロス石油大臣、ロシャ通信・情報技術大臣、マルティンス・ダ・シルヴァ工業大臣及びケイロス地質鉱山大臣と会談した。ケイロス地質鉱山大臣との会談においては、当地西企業がアンゴラの産業多角化のために貢献していくこと、また、国家地質計画(PLANAGEO)に基づきアンゴラ国内の鉱山の調査・探鉱を行っていく旨述べた(JA 2/25)。

6 IMFミッションの来訪

(1) 16日、リカルド・ベリヨIMFミッション団長は①アンゴラの経済状況評価、②原油安に対する政府政策について助言、③年次ミッション来訪時期の調整の為に当国を来訪し、経済系閣僚(マヌエル財務大臣、ゴルジェル経済大臣、グラッサ企画・国土開発大臣及びデ・モライスBNA総裁)と会合した。同団長は、2015年修正予算案の措置は適切かつ賢明であり、原油安がアンゴラの経済社会的発展にもたらす影響を軽減すべく政府は早急に対応したと評価した(JA 2/17)。

(2) 20日、同IMF団長は今次訪問の総括として以下3点を述べた。①アンゴラは収入源が石油セクターであることを認識しつつも他の分野の開発に取り組む必要がある。②今年アンゴラにとって難しい年となるが政府は原油安に対応するための必要な政策を取った。③燃料補助金はアンゴラの富裕層が恩恵を受けており同補助金の更なる削減をIMFは望んでいる(JA 2/22)。

7 国連貿易開発会議事務局長の来訪

(1) 25日、当国訪問中のキトゥイ国連貿易

開発会議(UNCTAD)事務局長はヴィセンテ副大統領と会談し、アンゴラの後発発展途上国卒業のためのプロセスを再確認した。

(2) 同局長はアンゴラが2018年以降に後発発展途上国を卒業すると述べたが、初等教育の改善や乳幼児死亡率の低下、石油依存経済の脱却及び産業多角化等の課題にも言及した(JA 2/24)。

経済

1 主要経済指標

(1) 物価

国家統計院(INE)が2月に発表した2015年1月期におけるルアンダ州のインフレ率は7.44%(対前月比▲0.04%p)を記録。月間物価上昇率は0.72%。最も高い伸び率を記録したのは「交通費」で1.59%。続いて「財・サービス」(1.46%)、「家具・家庭用器具・維持管理費」(1.25%)、「医療費」(1.16%)となった。

(2) 金利

2015年修正予算案が閣僚級経済委員会で承認されたことを受け、2月13日、金融政策委員会特別会合が招集された。同会合では①GDP 成長率目標6.6%、②インフレターゲット7~9%、③外貨準備高目標値は6ヶ月分の輸入決済額を担保することが確認された。政策金利のBNA基礎利率(Taxa BNA)は年率9%に据え置くことが決定された。

2月27日に開催された第41回金融政策委員会(CPM)は、BNA基礎利率を年率9%に据え置くことを決定。銀行間取引利率LUIBORオーバーナイト物は6.16%(前月比0.77%p)に引上げ。

(3) 為替市場

2月末、為替相場は USD1 = 106.858AKZで推移(対前月比1.869クワンザ安)。2014年9月以降、世界的なドル高に加え、原油安に伴う外貨の国内流入量低下により、クワンザ安に拍車がかかっている。

(4) ソブリン格付け

Standard & Poor's社は、昨今の原油安がアンゴラ経済に与える中長期的な影響を鑑み、アンゴラ国債をBB-からB+に格下げした(JA 2/16)。

2 国営企業の民営化

経済大臣令により、アンゴラ政府は軍事施設建設関連の国営企業 Bricomil 社を民営化する見込み。同大臣は、株式売却認可後15日以内に、同社の全株式売却を目的とした「交渉委員会」を立ち上げる見通し。なお、2014年に経済省が作成したリストによれば、2018年までに同社を含め計27社の国営企業の民営化が計画されている(JA 2/11)。

3 石油・鉱物資源関連情報

(1) LNG、年内に生産再開の見通し

Angola LNG 社に一部出資するソナンゴル社は、Angola LNG 社は新規機材の設置を完了させた後、年内に LNG 生産を再開する旨公表した(JA 2/26)。

(2) ナミベ堆積盆地の鉱区分け

今後のコンセッションへ向け、石油大臣令によりナミベ堆積盆地が計12鉱区に区分される。年内に入札が予定されている石油鉱区のうち、7鉱区がナミベ堆積盆地に、5鉱区がバイショ・コンゴ堆積盆地に所在する(AH 2/12)。なお、25日、レモス・ソナンゴル(アンゴラ石油公社)社 CEO は、バイショ・コンゴ盆地及びナミベ盆地における計15鉱区の入札を年内に実施する旨公表した(AH 2/26)。

(3) 石油関連サービス部門、年間200億ドルの付加価値

ブラウリオ・デ・ブリート・アンゴラ工業組合(AECIPA)会頭によると、石油採掘に係るサービス供給関連企業は年間約200億ドルの付加価値を生み出す見込み。また、同会頭は、原油安に対する課題として、オペレーションコストを含む支出削減が求められる旨述べた(JA 2/12)。

(4) 2014年の燃料輸入量

25日のソナンゴル社の発表によると、同社は、2014年、ガソリン、ディーゼル、潤滑油等の燃料を約570万m³輸入した。これは国内消費分の約80%に相当する(AP 2/25)。

(5) 2014年、産油量2.6%減

2014年、アンゴラの産油量は2013年の日産167万1,000バレルから2.6%減少した。同年、石油部門の利益は対前年比で77%減少し、7億1,000万ドルに留まった(AH 2/26)。

(6) 2014年ダイヤモンド生産量

2014年のダイヤモンド生産量は1,000万カラットに達した(AH 2/12)。

4 貿易・投資

(1) 2014年民間投資案件、約15億ドル

2014年上半期に承認された民間投資案件の総額は約15億580万ドルを計上した。Expansão 紙は、国家開発計画における同年目標額の約45億ドルに達するには下半期の契約額(未公表)が30億ドルを超える必要があると指摘している(EX 2/27)。

(2) 食品価格の高騰

16日、パカヴィラ商務大臣は、企業家及び投資家との会合で、主にインフォーマルマーケットで食品価格が高騰していることに対して反対の立場を取る旨述べた。また、アンゴラの年間輸入額は約300億ドル(主に食料品)に上り、コンゴ(民)の約3倍に膨れあがっていると指摘した。さらに、生産物の販売に関心を寄せる多くの企業家が活動する一方、輸入削減をねらいとした工場設立などの国内投資が必要である旨述べた(JA 2/17)。

(3) 2014年対中国輸出額

中国海関総署の発表によると、2014年の中国と CPLP 諸国の貿易総額は約1,325億8,000万ドルとなり、対前年比約0.85%の微増。アンゴラの対中国輸入は約59億7,000万ドルで同約50.73%増、対中国輸出は約310億9,000万ドル(同約2.67%)、同貿易総額は約

370億7,000万ドル(同約3.23%増)を計上した。アンゴラは、CPLP 内ではブラジルに次いで第2位の対中国貿易相手国を維持している(AH 2/24)。

5 金融・銀行

(1) ポルトガルへの海外送金額の減少

2014年1月から11月にかけて、アンゴラからポルトガルへの海外送金額は2億1,360万ユーロを記録し、対前年同期比14.3%減少となった。同年、産油量低下及び原油安に伴う経済状況の悪化により、建設業に従事する多くの在留ポルトガル人が帰国している(JA 2/4)。

(2) 外国通貨取引の自由化

BNA は、通達第1/15号²を通じ、外国紙幣取引の自由化規定を設けた。2014年1月以降、同年通達第1/14号³により、市中銀行が外国通貨を取引する際は BNA の認可が義務づけられていたが、今般の規制緩和により、右認可は不要となった。通達第1/14号は主に資金洗浄対策をねらいとしていた(EX 2/6)。

(3) 金融部門の利益、約33%減

2014年上半期の金融部門の利益は約301億4,500万 KZ を計上し、対前年同期比33.2%の減少となった。各市中銀行は、昨年7月の旧 BESA 不良債権問題の発覚に備え、貸倒引当金を計上していた可能性がある(EX 2/13)。

(4) 国内通貨建て預金額の上昇

BNA によると、2014年、国内商業銀行におけるクワンザ建て預金額は約3兆7,500億 KZ を記録し、対前年比で約27%上昇した。一方、外貨建て預金額は約158億(約1兆6,900億 KZ)で、対前年比で約5.5%減少した。同年は脱ドル化政策が進展したものの、マヌエル財務大臣は通貨の二重性が未だに存在すると述べ

² 2015年1月20日付け官報に掲載、公布を以て発効。

³ 2014年1月17日付け。

ている(JA 2/23)。

(5) アンゴラ・インベスト

ゴルジェル経済大臣は、小規模融資プログラムのアンゴラ・インベストに貸手として参加する市中銀行関係者との会合で、同プログラムを通じ、2014年末までに計660億クワンザ(約6億2,000万ドル)の融資が行われたと発表した。これにより、計17州で5万4,300人の雇用が創出される見込み。2012年の開始から今年2月にかけて、計362案件に対して総額700億クワンザの融資が実施された(JA 2/23)。

6 通信・電力・港湾・交通インフラ

(1) 大陸間海底ケーブル、2016年操業開始の見通し

ヌーネス Angola Cable 社 CEO によると、アンゴラとブラジルを結ぶ大陸間海底光ケーブルは、2015年末から2016年初にかけて操業開始する見通し(AH 2/6)。

(2) ソヨ石油コンビナートに係る支払い

大統領令によると、政府はソヨ石油コンビナートの建設に係る CMEC(中国機会設備工程)社に対する第1回目の支払い(約1億4,770万ドル)を実施した。総工費は約9億7,600万ドル(AH 2/6)。

(3) ダンデ港ターミナル、年内に完工

25日、レモス・ソナンゴル社 CEO は、ベンゴ州ダンデ港の新規ターミナルが年内に完工する見込みである旨述べた。建設費用は約

10億ドルで、石油やガス、潤滑油等を最大64万m³まで貯蔵可能。また、同 CEO は、ソヨ及びビルバンゴ、ナミベにおいて貯蔵施設の建設を年内に着手すると述べた(AH 2/26)。

(4) 道路建設の遅延

ピレス建設大臣は、今般の油価低落に伴う財政危機により、今年の新規道路建設が遅延する可能性があるとして述べた(AH 2/22)。

(5) ベンゲラ鉄道、対コンゴ(民)国境まで開通

10日、ベンゲラ鉄道(CFB)の開通記念列車がロビト駅を出発し、12日、コンゴ(民)との国境付近のルアウ駅(モシコ州)に到着した。1,344km の距離を約30時間かけて走行(AH 2/13)。

7 観光業

(1) 2020年までに460万人の観光客

6日、ムティンデ・ホテル観光大臣は、ロビト市に所在するホテルの開業式典に出席し、2020年までにアンゴラに460万人の旅行客を呼び込むことで多くの雇用が創出されると述べた(AH 2/9)。

(2) ダイヤモンドホテルの開業

3日、ENDIAMA 社(国営ダイヤモンド公社)が手がけた4つ星ホテル「ダイヤモンドホテル」が開業した。同ホテルはルアンダ市に所在し、客室は計179室、費用は4,000万ドル。建設に5年を要した。中国民間企業とのパートナーシップによる(AH 2/4)。

JA: Jornal de Angola, EX: Expansão, BB: Bloomberg, OP: O País, AP: Angop, SE: Semanário Económico, AH: Angola Hub, AN: Angola Notícia, RNA: Rádio Nacional de Angola, Sol: Sol Angola, EF: Economia & Finanças.